

播磨の 小京都

龍野のみどころ

兵庫県南西部に位置する龍野は小山が随所に散在した山紫水明の町です。
播磨の小京都と愛称される閑静な町の佇まいは「心のふるさと」といった思いを抱かせます。
古くから交通の大動脈であり、大地をうるおした清澄な揖保川の流れは今も変わらず、醤油・素麺・皮革等伝統的産業を育ててきました。
原生林に包まれた鶏籠山は、龍野のシンボルでありふるさとの山でもあります。
龍野の美しさは、鶏籠山の緑、揖保川の清流、古い町並みの織りなす美しさであり、それが長い星霜と古い歴史にいびかれて、底光りと豊かな詩情をたたえているところにあります。

主な観光名所・旧跡

- 1 【うすくち龍野醤油資料館】**
昭和初期まで蔵人が使っていたこうじむろです。桶、樽など製造用具、文献、資料を一堂に展示しています。
(建物:国登録文化財 醤油蔵:県指定文化財)
- 2 【如来寺(にょらいじ) 付近】**
寺院、浦川、醤油蔵などがあり、より龍野らしい情緒が残っています。如来寺境内には、露風の歌碑と筆塚があります。
- 3 【龍野歴史文化資料館】**
たつの市の古代から近世までの文化資料を保存公開しています。
- 4 【龍野城】**
鶏籠山の山城と山麓の平山城との二期に分かれ、山城は約500年前赤松村秀によって築かれ、山麓の平山城は寛文12年に信州飯田から脇坂安政公が移って築城されたものです。
心のふるさと龍野の象徴として、本丸御殿、白垂の白壁、多門櫓、埋門、隅櫓を復元しました。
- 5 【霞城館(かじょうかん)・矢野勘治記念館】**
三木露風、矢野勘治、内海青潮、三木清らの遺品、蔵書などを一堂に集め展示しています。
矢野勘治記念館は、旧制第一高等学校、西寮々歌「春爛漫」、東寮々歌「嗚呼玉杯に」を作った矢野勘治が晩年を送った自宅で、遺族により寄贈されたものです。
- 6 【旧脇坂屋敷】**
静かな落ちついた城下町「龍野」のイメージをつくり上げている白壁の古き佇まいを眺めていると、角々から今にも袈姿の侍が現われそうです。
- 7 【紅葉谷(もみじだに)】**
春の新緑、秋の紅葉の美しさは、訪れる人々の心を魅了します。ここから坂をのぼると両見坂、さらに近畿自然遊歩道でハイキングに最適です。
- 8 【聚遠亭(しゅうえんてい)】**
その昔、ここからの眺望絶佳をたたえて「聚遠の門」と呼ばれてから聚遠亭と名づけられたと伝えられています。心字池の上にある茶室は、庭園、池、杉垣根などと調和した書院造りを模した数寄屋風で、市指定文化財にもなっています。
- 9 【龍野神社】**
祭神は脇坂家の始祖、基内安治です。安治は賤ヶ嶽七本槍で有名です。10代安薫は外様大名でただ一人老中になった傑人です。11代安宅も寺社奉行となり、龍野の繁栄を招きました。
4月第1または第2日曜日には、時代絵巻武者行列が繰り広げられます。
- 10 【野見宿禰(のみのすくね) 神社】**
角力の元祖で有名な野見宿禰が故郷の出雲へ帰ろうと龍野まで来たとき病死しました。この墓として川原からリレー式に人々が石を運んだのです。当時は一面野原で「野に立つ人」「立野」といい、いつしか「龍野」となったそうです。歴代の横綱等が玉垣を寄進しています。
- 11 【文学の小径・哲学の小径】**
赤とんぼ歌碑から聚遠亭に通じる桜道を文学の小径といえます。白鷺山、南斜面に三木清の哲学碑があり、この前の道を哲学の小径といえます。両小径一帯には多くの碑があり、移りゆく世の変転が見られるかもしれません。またこのあたりは桜の名所で一目三千本の桜は実に壮観です。
- 12 【赤とんぼ歌碑】**
大正10年露風33才のとき、北海道トラピストより「櫻の実」で発表しました。ふるさとの思い出と、幼き日の母の思い出を歌ったものと思われます。また、歌碑五線譜は作曲者山田耕柝の絶筆です。
- 13 【龍野動物園】**
クマ・サル・ヤギなど無料動物園は年中子どもたちで賑わいます。園内には犬飼武、篤子の比翼歌碑や矢野勘治の「春爛漫」「嗚呼玉杯に」の寮歌碑があります。
- 14 【童謡の小径(こみち)】**
昭和62年7月に全国より「あなたの好きな童謡」を募集し、上位8曲を対象にして、その童謡にふさわしい環境を整備し、メロディーの流れるセンサー(感知装置)付きの童謡歌碑を設置し「童謡の小径」が、龍野公園内の白鷺山に整備されました。
- 15 【白鷺山】**
つつじの名所です。山頂付近には、三木清の哲学碑「しんじつの秋の日照れば」、内海青潮の詩碑「何処より吹かれ来し」があります。毎朝夕と夜の10時にここから「赤とんぼ」のメロディーが流れ「心のふるさと」を思わせます。また、眼下に揖保川の清流、播磨平野を一望に眺め、はるかに淡路島、瀬戸内海の島々を望む県下で最初の国民宿舎赤とんぼ荘があります。
- 16 【片しば竹】**
片しば竹とはマダケが変化したもので、節と節の間で片側は平滑で反対側に皺がで、成長してもこれが繰り返されます。それで片皺(カタシボ)竹と呼ばれています。幕末のころ、藩主脇坂公が珍しい竹を贈られ、家老の庭前(現在の片しば竹の宿梅玉)に移植し、門外不出としました。全国にこの場所のみに存在し、昭和33年、文部省指定の天然記念物に指定されました。
- 17 【粒坐天照(いはいにますあまてらす) 神社】**
白鷺山下のこの神社には、松尾芭蕉の句碑「何の樹の花とはしらずにほい哉」があります。
- 18 【龍野御坊圓光寺】**
宮本武蔵は、慶長年間の一時期、龍野御坊圓光寺に滞在し、境内の道場で圓明流の師範をして剣術指導をしたと伝えられています。住職の多田半三郎は武蔵から圓明流を学び印可状を授かっています。
- 19 【畳 堤】**
龍野地区における揖保川は、住宅までの距離が短く、土手が造れないため、量を差し込む枠だけの欄干のような堤防が60年以上前に設置されています。
万一の際は、住民の手で畳堤に量をため込めば堤防として機能します。

【重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)】

令和元年12月に、龍野地区の一部が国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に選定されました。

重伝建地区の詳しい情報は

たつの市ホームページ
QRコード

